

展 示 品 目 録

書名	刊行年	内 容
ほんぞうこうもく 本草綱目(和刻本)	不明	明 李時珍著。東洋における代表的な本草書。1596年に中国で発行された後、ほどなく日本にも到来。以後、幕末に至るまで本草学の基本文献として尊重され、和刻本も多数出版された。
やまとほんぞう 大和本草	宝永6(1709)	貝原益軒著。『本草綱目』に掲載されていない日本固有の種の存在に初めて言及し、本草学が文献学的学問から自然科学的学問へと発展する転機となった。
かだんこうもく 花壇綱目	享保元(1716)	水野元勝著、松井頼母増補。日本で発行された最初の園芸専門書と言われる。花卉約200種について栽培法を記述している。初版発行は1681年。
くさばなえぜんしゅう 草花絵前集	享保12(1727)	伊藤伊兵衛著三之丞画、同政武編。約120種の草花について図をあげて解説。伊藤伊兵衛は江戸・染井の植木屋。代々伊兵衛を名乗り多くの園芸書を発行した。
えほんのやまぐさ 画本野山草	文化3(1806)	橘 保国画。約190種の草花を寄せ植え風に描き、それぞれに注解を加えた絵手本。正確な観察に基づく植物画で後世に影響を与えた。初版発行は1755年。
そうもくせいふ 草木性譜	文政10(1827)	清原重巨著。草木約40種についての図説。水谷豊文ら、20名を超える本草家や画家が参加し、各植物に繊細な筆致の図を付す。一部カラー木版あり。
しよくがくけいげん 植学啓原	天保8(1837)	宇田川榕庵著。箕作阮甫序。天保5(1834)年刊行。日本で最初に西洋植物学の紹介が本書でなされた。3巻,図1巻。
こほうやくひんこう 古方薬品考	天保13(1842)	内藤剛甫著。薬物220余種について薬性・効用等を論じた薬物書。各品に、画家や本草家100余名による写実的・科学的な挿図あり。
か い 花彙	天保14(1843)	島田充房、小野蘭山著。山本亡羊校正。伝統的な「本草書」には必須の薬効などの記述を省き、純粹に植物について論じた書。写実的な植物図も秀逸。原本出版は1759-1765。
にほんしよくぶつず せつ そうぶ 日本植物図説 草部イ	明治7(1874)	伊藤圭介著。伊藤譲(伊藤圭介の三男)編。サヴァチェ序。草部(イ)初編一冊のみが刊行された。
けいかひやくぎく 契花百菊	明治38(1905)	長谷川契花画。カラー木版刷り。菊の名品を描いた画集。 原本出版は明治26?
ちんか ず ふ 珍花図譜	明治38(1905)	山名友石画。カラー木版刷り。洋蘭を中心に描いた画集。
ほんぞうずふ 本草図譜	大正5-11 (1916-1922)	岩崎灌園(常正)著。カラー木版刷り。原本は江戸の文政から天保にかけて出版された大部な植物図譜集で、日本最初の植物図鑑といふべきもの。大正復刻版。原本出版は1828-1844。
そうもくかじつしゃしんずふ 草木花実写真図譜	不明	川原慶賀著。カラー木版刷り。天保7年(1836)に刊行された『慶賀写真草』(墨刷り)を改題して彩色版とし明治期に再刊したもの。西洋の知識で描かれた植物図譜。
Phytanthoza-Iconographia	1737-1745	ウェインマン著「花譜」。ドイツ、レーゲンスブルクの薬種商ウェインマンによる彩色植物図集。ドイツ語版。全体で約4000種の植物が図示されている。江戸時代にオランダ語版が日本に入り、当時の本草学者らに影響を与えた。植物名のアルファベット順に集録。一部エーレットによる画あり。

展 示 品 目 録

書名	刊行年	内 容
Figures of the most beautiful, useful, and uncommon plants described in the Gardeners dictionary / Phillip Miller ロンドン	1760	(園芸事典収録植物図集 / フィリップ・ミラー) フィリップ・ミラーの著作「Gardener's dictionary(園芸事典)1731」に記載した植物から、300種を選んで図にした図譜集。エングレーヴィングによる彫版と手彩色で制作されている。内16枚は、植物画家として著名なエーレットの手によるもの。
Philosophia Botanica	1770	リンネ著「植物哲学」。初版は1751。図あり。
The botanical magazine, or, Flower-garden displayed ロンドン	1787創刊	(植物学雑誌) 薬剤師及び園芸家のウィリアム・カーティスによって創刊された植物学雑誌。当時のイギリスの植物園で栽培されていた海外の目新しい植物を紹介する目的で始められた。植物画家が描き彩色されたカラー図版と、専門家による詳しい解説が掲載されている。一枚の図に一種類の植物を描くという、いわゆる「植物画(ボタニカルアート)」の形式を確立させた雑誌とも言われている。シリーズ4までの図版は、一部を除き全て手彩色。現在も「Curtis's Botanical Magazine」の誌名で刊行され続けている。
Medical botany, or, Illustrations and descriptions of the medicinal plants of the London, Edinburgh, and Dublin pharmacopœias, comprising a popular and scientific account of poisonous vegetables indigenous to Great Britain / James Morss Churchill & John Stephenson Vol.1-3 ロンドン New ed.	1834-1836	(薬用植物誌 / チャーチル&スティーブンソン)ギルバート・トーマス・バーネット編 副題「イギリス固有の有毒野菜の一般的かつ科学的な解説を含む、ロンドン・エディンバラおよびダブリンの薬局方における薬用植物の図示および記述」。この新版は、1831年刊の初版掲載分に2図を追加し刊行された。 ※薬局方…その国または地域で一般に使用される主要な医薬品の基準を定めた法令。
Handbook of the British flora / George Bentham Vol.1-2 ロンドン 2nd ed.	1865	(英国植物誌便覧 / ジョージ・ベンサム) 当時のイギリスでの著名なハンドブックで、著者の死後も繰り返し版を重ね、1世紀以上学生に使用され続けた。掲載された図は、19世紀の代表的な植物画家ウォルター・フィッチによるもの。図版が付随しているのはこの第2版のみである。
Physiotypia plantarum austriacarum	1873	「オーストリア植物図鑑」。実際の植物から版を作って印刷されている。
Illustrations of the botany of Captain Cook's voyage round the world in H.M.S. Endeavour in 1768-1771 Botany of Cook's first voyage ; pt. 1-2	1900	(キャプテン・クックの世界一周航海時収集オーストラリア産植物図譜 / ジョセフ・バンクス, ダニエル・ソランダー 〈ジェイムズ・ブリトウン監修〉) バンクス作成の原版の試し刷りをもとに、ジェイムズ・ブリトウンが監修し、新たに石版で製版しなおしたもの。
Illustrations of Australian plants collected in 1770 during Captain Cook's voyage round the world in H.M.S. Endeavour Botany of Cook's first voyage ; pt. 3	1905	ジョセフ・バンクス卿はイギリスの博物学者で、王立協会会長、プラントハンターとしても知られる。航海で訪れた地の植物名や地名に彼の名が残されている。また、イギリスのキュー植物園の発展にも寄与した。キャプテン・クックの第一回世界航海に私費で援助をして同乗し、未知の植物を収集した。この時のスケッチ(植物画家シドニー・パーキンソンによる)をもとに植物図譜の出版を計画するが、銅版まで制作しながら出版は実現しなかった。